

平成28年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑩課題: 丹波大納言の機械化体系栽培における大粒安定多収栽培技術の確立

代表者: 京都府農林水産技術センター農林センター作物部長 蘆田哲也

目的

機械除草技術、心土充填機を利用した排水対策技術等を組み合わせて丹波大納言の機械化体系栽培を確立し、もって京都産高品質小豆の生産拡大と安定供給に資する。

成果

①機械除草機の適用技術の検討

・機械除草の実施により広葉雑草の発生が抑えられるものの、大型化した雑草に対しては除草効果が限定された(図1)。

②心土充填機を利用した排水対策技術の検討

・心土充填機を利用した弾丸暗渠による排水対策を施した処理区は、小豆の苗立ちや生育確保に効果がある可能性が認められた(図2・表)。



図1 狭畦栽培での機械除草
(K社製麦用除草機を検討)



図2 疎水材心土充填機(左)と粗粒充填暗渠(右)

心土充填機で暗渠処理(水平配置と放射配置)した試験区の苗立ち、草姿、着英数

試験区	苗立ち数 株/m ²	収穫期株数 株/m ²	主茎長 cm	主茎節数 節	一次分枝数 本	英数 英/株
放射+水平区	40.2	36.7	76.0	15.2	1.4	2.1
放射配置区	40.4	45.4	83.9	16.4	1.4	3.3
無処理区	36.9	33.8	74.0	16.4	1.9	2.9

苗立ち数と収穫期株数の調査地点は異なる。